

令和7年度第1回魚沼地域医療連絡協議会（書面開催）の報告事項に対する意見等

報告事項(1) 魚沼圏域内の在宅医療推進センターにおける取組について

- ア つまり在宅医療推進センター
- イ 魚沼市在宅医療推進センター
- ウ 南魚沼地域在宅医療推進センター

No	委員 (機関・役職・氏名)	意見等	回答
1	県立松代病院 院長 吉嶺 文俊	魚沼圏域入退院連携ガイドの項目(つまり(13)、魚沼(3)、南魚沼(3))について、三魚沼での情報共有や議論などを行っていたら教えてください。	【共通】 3地域の在宅推進センターが事務局となり、各推進センターから入退院連携に関わる病院・介護・行政の代表者をワーキングメンバーとして構成しています。集合型を1回、Zoomによるオンライン会議を1回、年間2回開催し、令和4年度に作成した「魚沼圏域入退院連携ガイド」を基に、入退院連携に関する情報共有や課題解決のためアンケートなどを行い協議を行っています。事務局はコーディネーターとして関わり、年間8回程度の事務局会議を行っています。
2		それぞれの地域内における入退院連携ガイドに関する項目(つまり(14)、魚沼(4))がありますが、南魚沼地域在宅医療推進センターではどのように検討されていますでしょうか。	【南魚沼地域在宅医療推進センター】 十日町、魚沼市では従来より入退院連携ガイドを運用していましたが、その後、魚沼圏域として共通ガイドを作成する経緯となりました。現在は、圏域版ガイドが必要事項を網羅していることから、それぞれの担当部署と協議したところ南魚沼市、湯沢町ともに単独の新たなガイド作成は行わない方針となりました。
3		魚沼(7)のような歯科衛生士さんとの連携はとても重要だと思います。つまり在宅医療推進センターと南魚沼地域在宅医療推進センターでも行っていましたら教えてください。	【つまり在宅医療推進センター】 歯科衛生士との連携は行っていません。 【南魚沼地域在宅医療推進センター】 南魚沼地域では、歯科医師会・歯科衛生士会と情報共有を行い、在宅歯科に関する研修等の周知や連携に取り組んでいます。なお、両会との共同開催による研修等は現時点では未実施です。
4		訪問看護はこれからの地域医療構想を調整する上で極めて重要なセクションだと思います。関連する項目として、つまり(3)の「訪問看護ステーション協議部会」がありますが、他の地域はいかがでしょうか。	【魚沼市在宅医療推進センター・南魚沼地域在宅医療推進センター】 地域全体の在宅医療体制の充実を図るため、次の取り組みを実施しています。 ① 訪問看護ステーション協議会魚沼支部会へ参加し、サービス提供体制や運営上の課題等について情報共有を行う。 ② 訪問看護ステーション協議会主催の研修会へ参加し、訪問看護の役割および多職種連携に関する認識の共有と連携強化を図る。

※()内数字は、資料1内の「各在宅医療推進センターの事業計画」における「3 事業実施計画」の取組番号

報告事項(2) 第8次新潟県地域保健医療計画のロジックモデルに基づく令和7年度魚沼圏域の取組(保健所の取組)について

No	委員 (機関・役職・氏名)	意見等	回答
1	県立松代病院 院長 吉嶺 文俊	へき地医療について ・空欄が多いが、取り組んでいないという事でしょうか。 ・他の領域よりも抜きん出て記載がされていない感があります。 ・医療資源の少ない地域、過疎、豪雪地、人口減少の著しい地域としてもう少し国に提言していくべきではないでしょうか。 ・自治体行政からの意見も聞いてみてください。	へき地医療につきましては、現在、県庁担当部署が主体となって推進している分野となります。 地域機関といたしましても、いただいた御意見を参考にしながら、地域の現状を把握し、担うべき役割について検討してまいります。
2	全国健康保険協会新潟支部 保健グループ長 仲野 公章	全国健康保険協会新潟支部では、新潟県やにいがた脳心センターなどと連携して、脳血管疾患による死亡率を低下させるために、「にいがたSTOP高血圧プロジェクト」を立ち上げ、「まずは血圧を測ることを習慣づけるための取り組みを推進しています。 高血圧が起因となる疾患は幅広いことから、魚沼圏域においても地域・職域が連携した血圧測定習慣化の取り組みを進めていただければと思います。	今年度は、南魚沼地域・職域連携推進協議会や十日町地域健康づくり連絡調整会議の場において、「にいがたSTOP高血圧プロジェクト」の取り組みについて情報共有をいたしました。 今後も、市町や地域産業保健センター等と連携してまいりたいと考えております。